

とうきょう すくわくプログラム活動報告書①

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物と共に～「園庭の虫とのふれあい」「インコ・メダカの飼育」～

<テーマの設定理由>

小さな園庭であるが、子どもたちは生き物を探しだし、日々、様々な発見がある。また、飼っているインコの様子を毎日気にかけて過ごしている。

2. 活動スケジュール

園庭の生き物とのふれあい：ダンゴムシ

春～夏～秋 虫たちの動きが活発な季節。新年度を迎え、子どもたちのやり取りも活発な季節。だが、スムーズに行かないことが毎日たくさんある。ダンゴムシをめぐって意見の食い違いが大きく、もめ事が絶えない。気持ちのやり取りをたくさんサポートしながら、支えていく。図鑑や絵本を提示してみる。

ダンゴムシの制作活動をしたり、運動会の親子競技でみんながダンゴムシになったり。知識欲の土台作りに、様々な活動を試みる。

飼育：メダカ

昨年10月に金魚が死んでしまった後、水槽が空っぽ。卒園児からメダカの赤ちゃんがたくさん生まれたので持っていきたいと連絡が入る。二学期の始まりと共に年長児がメダカとの生活を始める。とてもとても小さい赤ちゃんメダカである。年長組の子どもたちと見守っていきたいと考えている。

飼育：インコ

セキセイインコのホサナが幼稚園に来て5年。子どもたちは鳥かごを囲んで指を差し入れたり、園庭のハコベを与えたりしながら触れ合っていて過ごしている。暑い夏、寒い冬の健康管理についても、子どもたちと一緒に考えていく。



ダンゴムシいる？
みんな真剣！



ダンゴムシ制作中の年中児
みんな真剣！

ダンゴムシのできあがり
運動会が楽しみだね



3. 探究活動の実践

<活動の内容>

ダンゴムシ : 園庭でのダンゴムシ探しのバケツ・シャベル・図鑑・絵本・制作活動のための紙・厚紙・ハサミ・クレヨン・絵の具等を使用

・ダンゴムシを通じて意見の食い違いも大きかった6月。保育者は、いつでも気にかけて、気持ちのやり取りや、声掛けをして支えた。

・9月、ダンゴムシの制作活動に取り組み、虫への愛着を深める。友だちの作ったダンゴムシをよく見る。認める。認められる。嬉しい。

・秋の運動会は、大好きなダンゴムシを素材にした競技に親子で取り組む。親子でお面作りもしてみる。とても楽しい運動会となる。

・ダンゴムシの生態に友だちと心を合わせ始める。水の中に入れるような無茶なことはせず、石や土を置いたり、遊びの最後には園庭に戻したりすることが、だんだんに共通の認識になっていく。意固地になっていた子どもの気持ちは和らいできた。



年長児がひとりひとり作った自分のカード

まだ小さいので先生がお引越させた9月
ドキドキ見守る子どもたち



メダカ : 水槽・ろ過機・カルキ抜き・お玉・ばけつ・水草・餌(赤ちゃん食用・成魚食用)

・あまりにも小さく最初は子どもたちが手を出すことが出来ない。それでも毎日眺め、三学期を迎えると、年長児から、自分たちが餌をやりたいとの声が出てくる。どうやったら毎日忘れずに順番に餌遣りが出来るかもみんなで考え、当番表を作成。間違いなく餌やりが出来る準備完了。クラスの仲間と声を掛け合い、上手くやり遂げている。

さらにしばらくすると、水槽の水が汚いから取り替えてあげようとの声。どうやったらできるのかみんなで考える。水を一日お日さまにあてると良いこと、洗うためにはメダカの引越しを二回しなくてはならないことなど、皆で考え、意見を出しあい、慎重にやり遂げた。日頃落ち着いた無い子どももじっくり取り組んでいた。子どもたちが、意見のキャッチボールをしながら決めて行く姿に大きな成長を感じる。次はメダカに何をしてあげようか?という楽しみな気持ちをみんなで共有していることが分かる。大きくなった。

今度は自分たちで…やっぱり
ドキドキ見守る子どもたち



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

知識を深める、興味を育てることはとても重要である。

何より大切なのは、そのようになっていくためには友だちと一緒に理解を深め、相手を尊重する経験、尊重される経験を子ども同士でたくさんすること。そのことが正しい知識の習得に結びついている。

子ども同士でたくさんのやり取りを重ね相互理解を深めていくことが、集団の中での探求心のスタートであると改めて感じた今年度の生き物とのふれあいであった。